

`Microcystic pattern' should be recognised as part of the morphological spectrum of solid-pseudopapillary neoplasm of the pancreas

阿部, 篤

<https://hdl.handle.net/2324/2236134>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏 名 : 阿部 篤

論 文 名 : **‘Microcystic pattern’ should be recognised as part of the morphological spectrum of solid-pseudopapillary neoplasm of the pancreas**

(‘微小嚢胞構造’ は、膵臓 Solid-pseudopapillary neoplasm の形態学的スペクトラムの一部として認識すべきである)

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

膵臓の solid-pseudopapillary neoplasm (SPN) は、充実性および偽乳頭状の腫瘍細胞増殖パターンを特徴とする稀な膵腫瘍である。我々は、SPN が微小嚢胞構造を示しうること (微小嚢胞性 SPN) を確認しているが、これについてはあまり記述されておらず、微小嚢胞性構造を取りうる他の膵腫瘍と混同される可能性がある。今回我々は、微小嚢胞性 SPN について臨床病理学および免疫組織化学的な特徴を明らかにするために本研究を行った。

SPN44 例と漿液性嚢胞腺腫 (SCA) 10 例を用い、これらを微小嚢胞性 SPN 13 例 (29.5%) と典型的 SPN 31 例 (70.5%) に分類した。そして臨床病理学的解析、免疫組織化学的染色、粘液組織化学的検討を行った。淡明細胞化や間質の硝子化、出血は典型的 SPN よりも微小嚢胞性 SPN において有意に多く認められた。免疫組織化学的には、微小嚢胞性 SPN は典型的 SPN と比較して、CD10 (0%) と CD56 (62%) の発現が有意に少なかった (それぞれ 87% $P<0.001$ 、90% $P<0.0085$)。その他の臨床病理学および免疫組織化学的特徴 (すなわち、核の β カテニン・E カドヘリンの核発現、プロゲステロン受容体 (PgR) の発現や、フォークヘッドボックス L2 (FoxL2) およびエストロゲン受容体 (ER)、AE1/AE3 発現の消失) において、2 群間に有意差はみられなかった。微小嚢胞性 SCA はそのような免疫表現型の特徴をもたなかった。ヒアルロニダーゼ消化アルシアンブルー染色により、微小嚢胞性 SPN の粘液様間質にはヒアルロン酸が含まれることが明らかになった。

以上より、我々は微小嚢胞構造は SPN の形態学的スペクトラムの一部として認識すべきであると結論付けた。この結果は、微小嚢胞構造を伴う膵腫瘍の正しい診断に貢献すると考えられる。さらに、ヒアルロン酸の蓄積による間質の変化が SPN の微小嚢胞構造の一因であると我々は推測している。